

今週の聖句

あなたがたに平和があるように。

ヨハネによる福音書 20章19節

ねらい

復活の日の夕方、使徒たちに聖霊が与えられたことが伝えてられています。このことを通して、イエス様の復活後、使徒たちが教会の活動を始めるにあたって、聖霊の働きを強く感じたことが記念され、わたしたちもこの復活後の季節を力強く歩みはじめる力を受けましょう。

平和、平安、それは人がつくりだすものではなく、主が共におられることである。そのことを覚えるようにしましょう。

説教作成のヒント

- ・ 「霊」はギリシア語で「プネウマ pneuma」、ヘブライ語で「ルーアツハ」と言い、どちらも本来、「風」や「息」を意味する言葉です。
- ・ 聖霊は目に見えないので、その働きを感じさせるしるしをもって表現されています。使徒言行録2章では「激しい風が吹いてくるような音」や「炎のような舌」(3節)がそれにあたり、ヨハネ20章では「息を吹きかけ」(22節)がそのしるしです。

豆知識

- ・ 聖霊の働きは非常に広いものです。「その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった」(創世記2章)。この神の息も聖霊といえるでしょう。人間は聖霊の働きなくしては生きることができないのです。
- ・ 「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です」(ガラテヤ5章22-23節)とされているように、聖霊の力によって、わたしたちは大きな力、様々な力を受けることができます。

説教

イエス様が復活された後も弟子たちはまだ、自分たちが捕まるのではないかと不安で不安でたまりませんでした。だから、弟子たちは自分の家の扉に鍵をかけて閉じこもっていました。それは戸に鍵をかけると同時に自分の心にも鍵をかけていたということでしょう。

イエス様はその鍵を勝手には壊されません。鍵を壊して入ってくるのは泥棒です。不思議に思うことですが、イエス様は弟子たちの真ん中に立たれて言うのです。「あなたがたに平和があるように」と。アメリカやヨーロッパではくしゃみをすると周りの人が「God bless you!」(神さまの守りがありますように!)とってくれるそうですが、イスラエルの国では色々なあいさつに「シャローム」という言葉が使われるそうです。朝、人に出会ったら、「シャローム」、お昼に誰かに会ったら「シャローム」、夕方「シャローム」、そして夜、眠る前のあいさつも「シャロ

ーム」だそうです。「シャローム」の意味は「神さまが共におります」、「神さまと一緒にいてくださいますように」という意味だそうです。「神さまが共にいる」それがすべての人にとって、一番の幸せであり、相手に対してのお祈りなのです。朝も昼も夜も相手のためにお祈りする。とっても素晴らしいことです。イエス様が言われた「あなたがたに平和があるように」という言葉はこの「シャローム」という言葉です。神さまと一緒にいますようにというあいさつと同時にイエス様が一緒におられますというお約束の言葉のようにも聞こえます。十字架にかかれたイエス様と弟子たちは離ればなれになっていましたが、もうイエス様はどこにもいられない。その安心感が弟子たちに与えられました。だから、弟子たちは喜びました。イエス様が共にいてくださる。それは平安であり、平和を生み出すものだったのです。

喜び弟子たちにイエス様は続けて言われます。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」と。家にこもっていた弟子たちはこれからはイエス様に送り出されて、伝道をしていくのです。でも、一人ならばやっぱり心細いです。イエス様は息を吹きかけられます。「聖霊を受けなさい」と。聖霊は見えないものですが、神さまの息と言われ、わたしたちを強めてくれる存在です。人間が創造された時に鼻に入れられた命の源でもあります。それをイエス様がくださった。一緒にいてくださるという約束と平安、そしてわたしたちの命と力の源となる聖霊。それを受ける時、キリスト者は力強く歩み始めることができます。「シャローム」と呼びかけてくださるイエス様の愛を受けて歩みましょう。

### 分級への展開

さんびしよう

\* 讚美歌は " こどもさんびか " (日キ版) より

40番

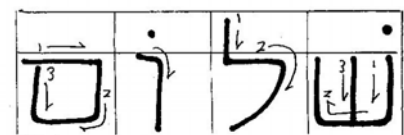
改訂34番

話してみよう

私たちの日常の挨拶のことばを考えよう。朝、昼、夜、寝る前などどんな挨拶をしますか。日常のいろいろな場面を考えて、挨拶のことばをあげてみよう

やってみよう

主イエスさまのおことばの中で、素晴らしいのは「平安(平和)があるように」とおっしゃったことばですね。イスラエルのことば(ヘブライ語)ではシャロームという挨拶ことばです。イスラエルの小学生のように "みことばノート" にかいてみましょう。



イスラエル小学生の習字



暗唱聖句

信じない者ではなく、信じる者になりなさい

ヨハネによる福音書 20章 27節

ねらい

復活したイエス様との出会いは、弟子たちにとってゆるしの体験でもありました。「ゆるし」とは「和解、関係回復」の出来事です。放蕩息子の譬えのように受け入れられて、もう一度歩み出すことができたこと、弟子として受け入れられたことを覚えましょう。

「見ないのに信じる人は、幸いである」(29節)は、わたしたちへの祝福のことばだと言えるのではないのでしょうか。使徒たちの後の時代のキリスト信者は、皆「見ないで信じている者」だからです。幸いなるかな、見ないで信じる者よ。この幸いを受けとめ、喜びの中を歩いていきたいと思います。

説教作成のヒント

- ・トマスはイエス様が弟子たちに現れた後、弟子たちとは一緒にいませんでした。エマオへの道のように弟子たちはバラバラになって歩いていったのです。けれども、イエス様が現れた話を聞き、少しずつ集まってきたのでしょうか。トマスも信じないと言いつつ、信じたい、自分もイエス様に会いたいと願っていたのではないのでしょうか。
- ・手の傷、わき腹の傷はわたしたちがイエス様につけた傷です。トマスにとっても痛みです。その痛みを自分のものとして受けとめる時、キリスト者ははじめて歩み出せるのです。
- ・トマスは弟子たちの集いの中で、弟子たちの集いの真ん中にいるイエス様に会いました。わたしたちはどこで復活のイエスに出会うことができるのでしょうか。日常生活の中でイエス様に会っていきます。

豆知識

- ・「これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるため」(31節)の原文は「信じていない人が信じるようになるため」とも「信じている人が信じ続けるため」とも受け取ることができます。ヨハネ福音書はいつも、すでに信じているわたしたちをイエスとのより確かな交わりへと導いてくれる書だと言えるでしょう。
- ・八日目は当時の数え方では当日を一日目と数えるので、今でいう七日の後、つまり一週間後のことで、日曜日から日曜日という現在の主日の先取りである。

説教

「ああ主の瞳」という歌い出しで始まる賛美歌があります。その三番の歌詞は「ああ主のひとみ まなざしよ、うたがいまどう トマスにも、み傷しめして「信ぜよ」と 宣らすはたれぞ 主ならずや」です。この賛美歌は昔、日本の若いふたりの神学生たちによって共作された歌だそうです。自分自身のふがいなさ、情けなさを感じながらお祈り会に向かう時にイエス様のまなざしを感じ、この詩を書かれたそうです。

イエス様の弟子の中に「疑い屋のトマス」と言われていた人がいました。疑い屋と言われると悪いイメージがあるかもしれませんが、別の言い方をすれば、慎重な人とも言えるでしょう。すぐにだまされない、ちゃんと物事を確かめる人です。彼は他の弟子たちがイエス様に会った、復活されたと聞きましたが、すぐには信じませんでした。慎重に、自分のこの目で見るとまでは、イエス様に触れてみるまでは信じない、と言っていました。でも、それは信じたくないのではなく、本当は信じたいという思い、イエス様に自分も会いたいという願いがあったからです。そうでなければ、わざわざ他の弟子たちと一緒に家の中にはいなかったはずですよ。

八日の後、イエス様はもう一度、現れて、トマスに言われます。「わたしの手を見なさい、手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい」と。どんな顔で言われたのでしょうか。怒った顔、困った顔、泣いた顔。違います。きっとほほえみながらイエス様は語りかけてくださったことでしょう。イエス様の目は優しい目でトマスに語りかけてくださったはずですよ。そこにはトマスのことを、弟子たちのことを赦されるイエス様の深い愛情がありました。

同じように、わたしたちのことを優しく見つめながら赦して下さるイエス様がおられます。そして、わたしたちに信じる者となりなさいと言われます。信じなければ、イエス様と共に歩けません。日常生活の中でイエス様に会いながら、支えられながら歩いていきましょう。

## 分級への展開

さんびしよう

\* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

115番

改訂88番

話してみよう

信じるとは、どうすることでしょう。

- ・日常生活の中で、信じることは、どんなことでしょう。  
両親、学校の先生、隣りの人、友だちのことなど。食事や乗り物に乗ったりすることなど。
- ・それは、本当のことだと深く思うこと
- ・それはまちがいのないこと
- ・自分の考えや思いをこえた大きな力にすべておまかせすること
- ・主イエスさまこそ、真実のお方と信じること

やってみよう

二人一組になって、一人の人が支える係、もう一人が倒れる役目になりましょう。

倒れる人は相手の方を見ないで背中からゆっくり斜めになります。相手が受けとめてくれるという信頼をもてれば、きっと倒れることができます。

暗唱聖句

わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている

ヨハネによる福音書 10章 14節

ねらい

良い羊飼いとして羊にいのちを与えるイエス様と羊であるわたしたちとの深いつながりが示されていますから、そのつながりを受けとめましょう。

羊にとって、囲いの中にいることは安全です。しかし、実際には餌となる牧草は囲いの外にあります。だから、羊飼いは羊を導いていかなければなりません。教会の中だけにキリスト者はいるだけではなく、社会の中で生きるために導かれていくことを覚えましょう。

説教作成のヒント

- ・ 1-5節のたとえば「聞く」と「知る」が大切な動詞です。「聞き分ける」(3節)は、原文ではただ「聞く」という言葉です。「聞く」にはただ単に耳で聞く、というだけでなく、「聞き分ける」という意味もありますし、「聞き従う」という意味もあります。4-5節の「知っている」「知らない」の「知る」はただ単に知識として知るという意味ではなく、お互いの関わりを表すことばです。
- ・ 14節に良い羊飼いの理由がでてきます。イエス様がすべての羊を知っておられること、そして、羊たちも羊飼いを知っていることが大切です。それは神さまがイエス様をご存じなのと同じです。信頼とつながりのなかでわたしたちも導かれていくのです。

豆知識

- ・ この箇所は9章からのつながりです。生まれながら目の見えなかった人が癒されますが、そのことによって、イエス様とのつながりがその人には生まれました。命がけのことをされたイエス様がおられます。その人の羊飼いになったイエス様がおられたからこそ、多くの人の羊飼いとして命を捨て、命を得させるとイエス様は宣言されているのです。

説教

昔のパレスチナの人たちはたくさんの羊を飼いながら、移動しながら生活していたそうです。広い牧場に柵があって、門があって羊はずっとその中にいるというではありませんでした。羊飼いは100頭くらいの羊の群れを追い、餌になる草のあるところを求めて旅していきます。羊は弱い動物なので、1頭だけでいたらすぐに野獣に襲われて滅んでしまいます。羊飼いの役割は、羊を1つの群れに集め、狼や盗人から守り、草のあるところに導いていくことでした。夜になると羊は各地に設けられた囲いに入れられました。この囲いは羊飼いたちが何世代もかけて作り上げたもので、誰の所有というわけではなく、いろいろな羊飼いの羊が混じって一緒に夜を過ごします。朝になって囲いを出るとき、羊たちはちゃんと自分の羊飼いを知っていて、自分の羊飼いに付いていくのだそうです。羊飼いのほうも一匹一匹の羊を見分けることができたと言われていました。それは羊飼日も羊を愛し、羊も羊飼いを信頼しているからです。

イエス様は「わたしは良い羊飼いです。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。」と教えてください。あなたの名前も、わたしの名前もみんなの名前をイエス様は知っておられます。呼んでくださいます。それはみんなのことをイエス様が愛してくださっているからです。名前を呼ばれるということは愛されている証拠なのです。

愛している羊たちですから、大きくなって欲しいと羊飼いは願います。羊たちが大きくなるためには何が必要でしょう。美味しい草、食べ物と水です。その場所に行くにはちょっと危険がありますから、羊飼いは危険のないように、迷子にならないように導いてくれます。わたしたちが成長できるように導いてくれます。そして、もし、そんな愛されているものが危険な目にあったら放っておくでしょうか。羊飼いですイエス様は羊を助けるために命を捨てられる方です。自分の身を盾にしてでも羊を守ってくれます。イエス様は十字架で命を捨てられましたが、今、わたしたちは新しい命、神さまの愛を深く受ける命を受けています。その一つ一つが神さまとイエス様とわたしの間にあるつながり、信頼が生み出してくれていることに感謝しましょう。

分級への展開

さんびしよう

\* 讚美歌は " こどもさんびか " (日キ版) より

49番

改訂129番

話してみよう

最も古い昔から羊たちは人間の仲間でした。今でも中国からイスラエルにかけて中央アジアには、遊牧民と羊たちが生活しています。絵本、写真集でたしかめて話し合みましょう。

やってみよう

スケッチブックかみこことばノートを用意  
羊という感じは羊の姿から作られた象形文字です(角のある頭と四本の足と尾)  
一人の羊飼(君)のもとに集まる羊たちを群と呼びました。捧げものにする時は、その羊達の中の一番大きなりっぱな羊をえらびました。それから美しいということば(漢字)ができました。

羊、群、美など羊に深く関係のある字がたくさんあります。書いてみましょう。



まるはさんかくでひつじかい

ひつじは ひつ とかきます



羊たちにはぜんぶ名前があります。  
羊飼いは そのぜんぶをおぼえています。

暗唱聖句

わたしは道であり、真理であり、命である。

ヨハネによる福音書 14章6節

ねらい

この箇所は最後の晩餐の中で語られた箇所であり、イエス様が目に見えない時に弟子たちがどう生きるかが問われます。神を信じなさいと強く命令されていますが、それは「その方に信頼を置き、自分を委ねる」という意味で「信じる」ということを覚えましょう。

「わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる」(12節)は不思議な言葉です。イエス様の働きよりも大きい働きなど、わたしたちにはできません。わたしたちの働きが一人の力ならば、人間の働きにすぎません。しかし、父、子、聖霊の働きが加えられる時、それは人間の力を越えた大きな力になります。

説教作成のヒント

- ・道は誰かが、何かが作るものと考えがちですが、本来の素朴な道は人が歩くことによってできるものでした。イエス様は「どこそこに道があるから、その道を行きなさい」と言うものではありません。「わたしが道だ」というときの道は、イエスご自身が歩むことによってできる道だと言われているのです。
- ・真理は「確かなもの、頼りになるもの」が元となって生まれた言葉。確かなもの、頼りになるものであるイエス様ご自身、そしてイエス様において現された神ご自身の姿が真理なのです。
- ・命はイエス様ご自身の生きた「命」のことであり、この命をわたしたちも生きることになるのです。命(ゾエー)は人を生かす根源的なエネルギーを表す言葉ですから、わたしたちを動かす神さまの力そのものを命と表現されているのでしょう。

豆知識

- ・主の受難の物語は「さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた」からはじまっている。愛の完成がイエス様を通して、神さまの元に近づくことだが、それは死ではなく、この世界を聖霊と共に歩み出す始まりである。

説教

学校に通う人たちは通学路が決められていたり、いつも通る道があると思います。教会に来るのにも道を通ってきたと思います。どうしてその道を通るのでしょうか。その理由は目的地が決まっているからです。目的地への道はいくつかあると思いますが、その中でも最もいい道は一つしかありませんし、その道は初めからあるのではなく、誰かが作ってくれた道です。

イエス様は十字架にかかれて、弟子たちの前からいなくなれますから、その前にちゃんと目的地を知って歩いていくようにと弟子たちに言われました。それはイエス様の優しさです。愛情です。決して心騒がせず、その道を歩みなさいとイエス様は命令されます。そのように言える

のはこれから弟子たちが道を探すのではなく、もうイエス様が作ってくださっているから、またこれから作ってくださるといふ約束があったからなのです。

道はダンプカーやロードローラーなどが作るのではなく、人が歩くことでできてきました。イエス様が「わたしが道だ」といふときの道は、イエス様ご自身が歩むことによってできる道だと言っていていいでしょう。そして、このイエス様の道は十字架の死で終わる道ではなく、死を通して神のもとに行く道なのです。でも、死んでしまったら道も歩けないと思います。イエス様は本当に死になさいと言われるのではなく、新しく生まれなさいと言われているのです。洗礼という新しい命に生きる時、神さまにつながる道をわたしたちは歩いていくことができるのです。

その道は神さまへとつながる唯一の道です。「わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」とイエス様は言われます。簡単にイエス様が作られた道ではありませんでした。本当にイエスが命がけで切り開かれた道。そんな道をわたしたちはただのほほんと歩いていくわけにはいかないでしょう。感謝し、ここにはどんな意味があるのか知りながら歩まなければなりません。その時に神さまの、イエス様の深い愛に気づき、この方たちを心から信頼できる、委ねることができるという真理に気づくことができるでしょう。

命というのは生きていく力です。それも自分がただ生きるだけではなく、多くの方に仕えながら生きていくことが大切です。イエス様の道を通して、神さまの真理に気づかされる時、聖霊の力、命を与えられます。イエス・キリストを信じる者のうちには大きな力が働き、証しの人生を歩むことができます。主イエス・キリストに信頼をもって、神さまにつながる道を一步一步歩いていきましょう。

## 分級への展開

さんびしよう

\* 讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

36番

改訂120番

話してみよう

毛筆で文字を正しく美しく書くために、書道があります。お茶のことを学ぶ茶道、生花を習う華道など、その道の師匠や先生から指導を受けます。柔道や剣道もありますね。

- ・イエス・キリストの道は、どんな道？
- ・天地創造の父なる神様のところへ行く道
- ・真理の道
- ・生命の道

やってみよう

みことばノートを用意。今日の聖句を自分の字で書いてみよう。暗唱できるまで、くりかえしくりかえし読んでみよう



暗唱聖句

わたしもあなたがたの内にいることが、あなたがたにも分かる。

ヨハネによる福音書 14章20節

ねらい

先週に引き続き、最後の晚餐の席でのイエス様の言葉。イエス様は、ご自分は目に見える形ではもういなくなるが、何かが残るということをさまざまな形で約束され、その中心は「聖霊の派遣」であることが語られています。

「聖霊」とはわたしたちのうちに働く神の力です。そして、復活されたイエス・キリストはわたしたちと共におられます。わたしたちの体験の中でもほとんど区別できないことではないでしょうか。言葉や表現は確かに違いますが、言葉や表現よりも聖霊やイエス様に支えられているからわたしたちは決して孤立無援ではないと実感することのほうが大切です。

説教作成のヒント

- ・この箇所を中心にあるのは「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない」(18節)という力強い約束です。この言葉を中心に、16-17節に「聖霊」の約束があり、19-20節には「イエスがともにいる」という約束があります。以下のように図解してみると分かりやすい。

15節 愛する、掟を守る

16 - 17節 聖霊と一緒にいる、世は見ない・知らない、あなたがたは知っている

18節 あなたがたをみなしごにはしておかない

19 - 20節 世はわたしを見ない、あなたがたは見る・分かる。あなたがたのうちにいる

21節 掟を守る、愛する

豆知識

- ・「弁護者」はギリシア語で「パラクレートス parakletos」です。「慰め主」とも訳されますが、もともとは「そばに(パラ para)」「呼ばれた者」(呼ぶ = カレオ - kaleo)の意味です。裁判の席では、そばにいて助けてくれる人という意味で「弁護者」の意味になります。

説教

三鷹にあるルーテル神学校には一つのキリスト像が置いてあります。大きさは大人の腰くらいの大きさでしょうか、あまり人目につかない二階の階段の踊り場にそのキリスト像はひっそりとたたずんでいます。おそらく、多くの方はその前を通ってもキリスト像とは気づきません。目に入ったとしても壊れた木彫りの像が置かれていると感ずるくらいではないでしょうか。実はこのキリスト像には両腕がないのです。肩から下、腕の部分がこのキリスト像にはなく、腰を少しかがめているのです。別に学生がいたずらして壊したのではなく、制作された時から両腕がなかったそうです。腕がないキリスト。自由が奪われた者を意味しているのでも苦しみの中を歩むキリストを現しているのでもありません。この両腕がないということをとおして、わたしたち一人一人に語りかけられることがあるのです。それはあなたがたがキリストの腕となってください。そ

う語りかけられているかのようです。このキリスト像に腕がないのはキリストがわたしたち一人一人を用いてくださるために腕がないのです。あなたがわたしの腕になってください、そうキリストはわたしたちに語りかけられているかのようです。イエス様の腕、イエス様の手はすべての人に差し出された手でした。病や苦しみの中にある方を癒し、また多くの方を導いた腕でした。その働きをあなたが担って欲しいと、このキリスト像はわたしたちに語りかけてくるのです。

イエス様は弟子たちのもとを去って行かれますが、それは弟子たちがひとりぼっちで歩むということではありません。「わたしはあなたがたをみなしごにはしておかない」という約束をしてくださっています。決して、一人ではなく、むしろ働きをくださいます。

イエス様はご自分が去られた後、別の弁護者、真理の霊と呼ばれる聖霊がわたしたちに与えられると言われます。わたしたちは見えないもの、特に霊などの存在を敬遠してしまいましたが、聖霊の具体的な働きを聞くと、一人一人が聖霊にすでに満たされていることに気づかされます。神さまの息と言われたり、神さまとわたしたちをつなぐ中保者、真ん中に立つ者と言われることもあります。また導き手、弁護人、助け手、他にも聖霊がわたしたちにイエスは主である、と告白する信仰を与えてくれたとも言われます。見えない力でわたしたちを動かすのが聖霊の力です。

聖霊の力は「互いに愛し合う」ことをわたしたちにできるように助けてくれます。一人ではできない働きをするために、またキリストの腕になるために聖霊に満たされて歩みましょう。

## 分級への展開

さんびしよう

\* 讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

7番

改訂95番

話してみよう

- ・イエスさまは、昔の人ですか？
- ・イエスさまは、どこにいますか？
- ・イエスさまは、生きていますか？

やってみよう

救援信号のS O Sを知っていますか。

海や山で遭難した時、S O Sを発信しますが、救助を求めて何かの方法でS O Sを伝えます。この合図は英語で「Save Our Souls」の略ですよ。 ”私たちの魂を救って下さい”という意味です。

本当に生きているお方が、おぼれている人を助けることが出来ますね。私たちの弱い小さな魂は、イエスさまが守って救って下さいます。スケッチブックにS O Sをかいてみましょう。